

転送ウィザードを使うその 1:PC→PC 間での直接ネットワーク転送

デジタルアドバンテージ 2002/02/09

新旧 2 台のコンピュータをネットワークで接続して、両者間でファイルや設定情報を直接転送することができる。これにはまず、転送先となる Windows XP 側で転送ウィザードを起動しておき、その状態で、転送元側の転送ウィザードを起動する。すると転送元側の転送ウィザードはブロードキャストによって転送先を探し出し、これに接続、データ転送を開始する。セキュリティを確保するため、この際にパスワード入力求められる。以下、画面を交えながら、手順を追って解説しよう。

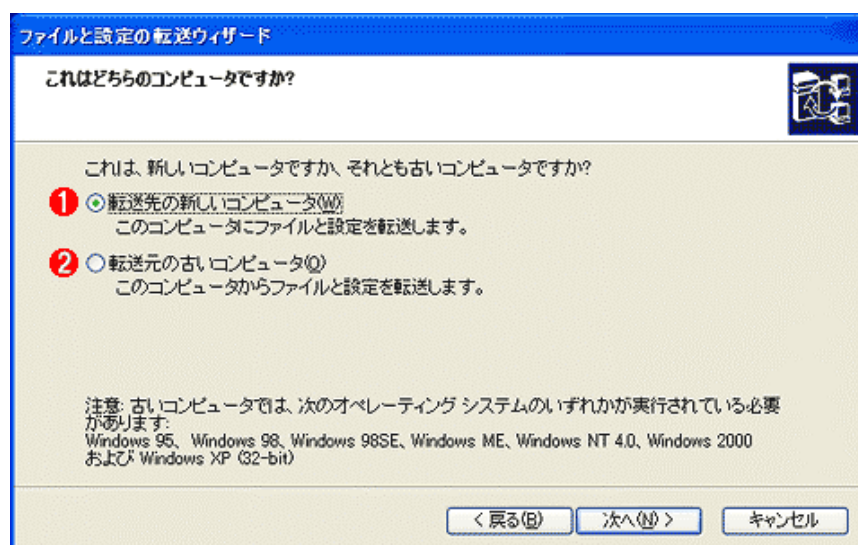
[PC→PC]ステップ 1: 転送先の WindowsXP 環境で転送ウィザードを起動する

転送ウィザードでは、一種のバックアップ処理のように、ファイルを書き出したり、書き戻したりするので、アプリケーションによってオープンされたままになっているファイルなどがあると、処理を正しく行えない場合がある。起動中のアプリケーションがあるなら、まずはそれらを終了しよう。

次に、転送先となる Windows XP Home Edition / Professional の [スタート] メニューの [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [ファイルと設定の転送ウィザード] を起動する (あるいは、[ファイル名を指定して実行] ダイアログで、転送ウィザードの実行ファイル名である「migwiz」を指定する)。すると [ファイルと設定の転送ウィザードの開始] というダイアログが表示されるので下の [次へ] ボタンをクリックする。

[PC→PC]ステップ 2: 転送先 / 転送元の選択

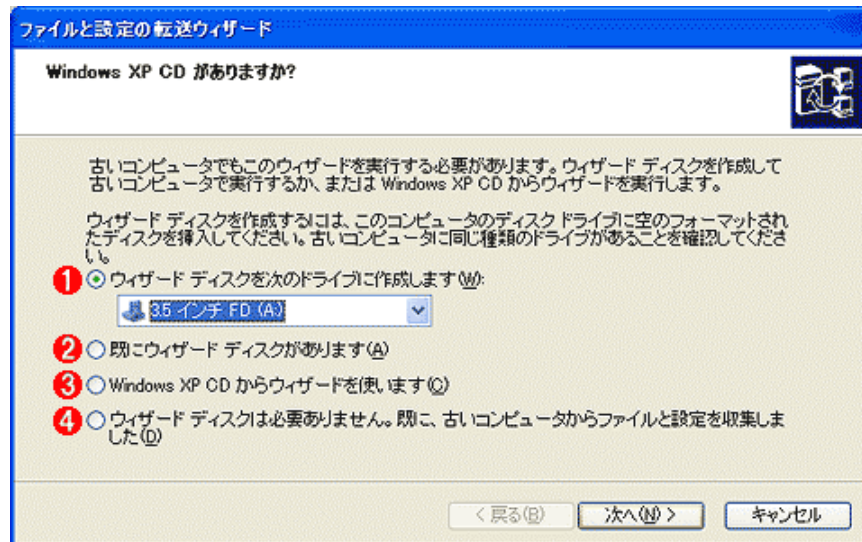
Windows XP で転送ウィザードを起動したときには、次のダイアログが表示されるので、このコンピュータが転送先なのか、転送元なのかを選択する。転送ウィザードは、Windows XP 以外を「転送先」に指定することはできないので、Windows XP 以外で転送ウィザードを実行した場合にはこのダイアログはスキップされ、次のステップ 3 に移動する。



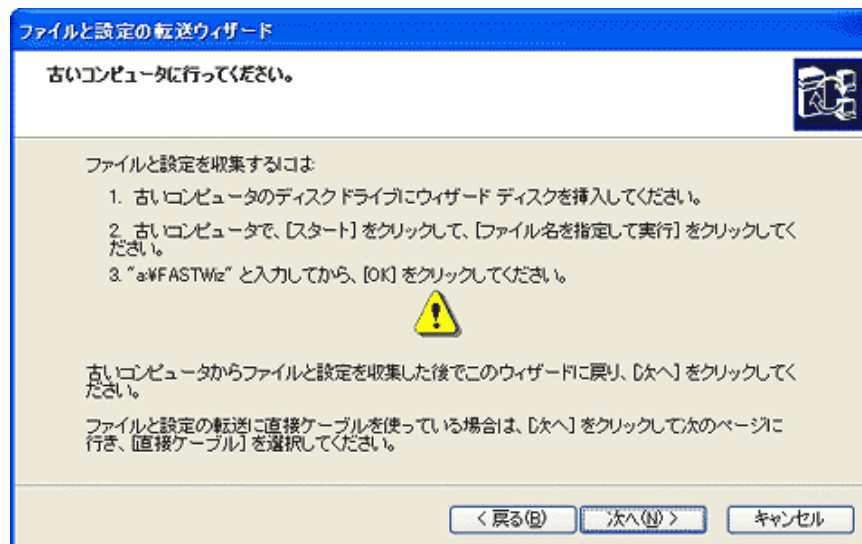
今回は、いま転送ウィザードを実行しているコンピュータを転送先に指定するので、[転送先の新しいコンピュータ]の方を選択して[次へ]ボタンをクリックする。

[PC→PC]ステップ3:ウィザード・ディスクの作成

次は、転送元のコンピュータで転送ウィザードを起動しなければならないのだが、ここでそのためのプログラムが準備されているかどうかを確認される。ウィザード・ディスクを作成して使用する。ウィザードディスクをまだ作成していなければ、[ウィザードディスクを次のドライブに作成します]を選択しディスクを作成し、すでに作成済みの場合には[既にウィザードディスクがあります]を選択して[次へ]をクリックする。



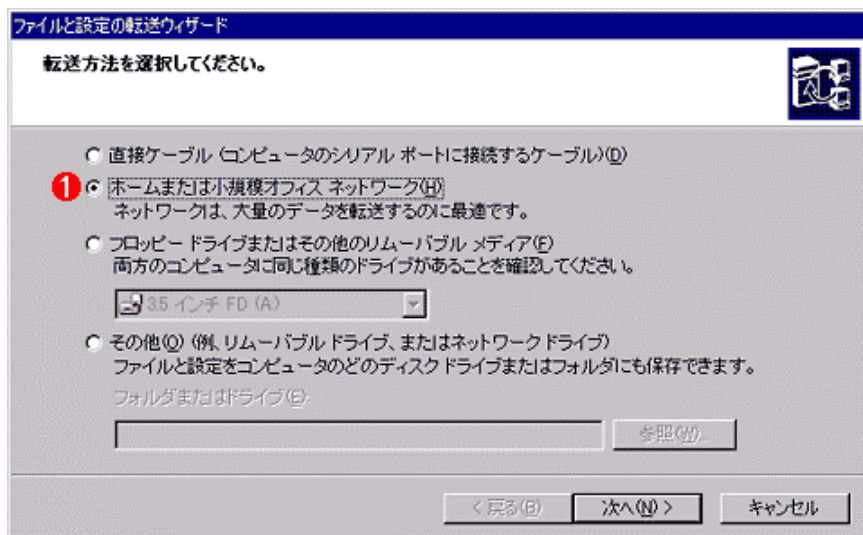
次に進むと、以下のダイアログが表示される (1)を選択した場合は、ウィザードディスクの作成後にこのダイアログになる)。



この状態で、いま操作中の転送先コンピュータは、転送元コンピュータで実行された転送ウィザードからのネットワーク・アクセスを待ち受けている。そこで、転送先コンピュータはこのままにして、ウィザードディスクを持って転送元の古いコンピュータの前まで移動する。

[PC→PC]ステップ 4: 転送元コンピュータで転送ウィザードを起動する

転送元コンピュータにやってきましたら、手にしたウィザードディスクをフロッピー・ドライブに挿入し、ルート・ディレクトリにある「FASTWiz.exe」を実行する。ただし先ほどと同様に、ほかに実行中のアプリケーションがあるときには、それらをすべて終了しておく。すると転送ウィザードの初期画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックする。転送方法を選択する次のダイアログが表示される。



このダイアログを表示する直前に、転送ウィザードは、ネットワーク内に接続を待ち受けている転送ウィザードが存在するかを(TCP/IP の)ブロードキャストで検索する。そして転送先側からブロードキャストが実行されている場合だけ(つまり、接続可能な転送先コンピュータが存在する場合だけ)、上のダイアログの[ホームまたは小規模オフィスネットワーク]項目を有効にする。

[PC→PC]ステップ 5: 転送する情報の選択

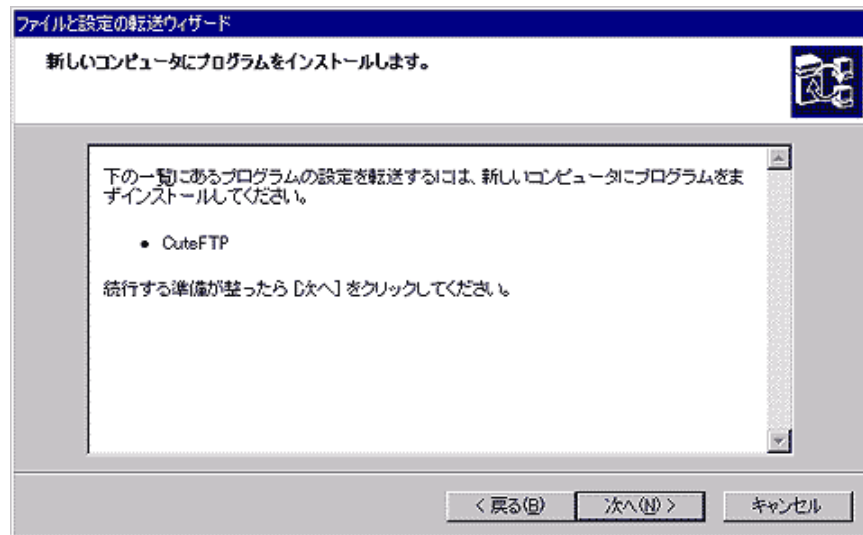
次のステップでは、転送する情報が問い合わせられる。ここでは、Windows システムの設定情報など、ごく基本的な情報のみを転送する[設定のみ]、「マイドキュメント」以下に格納されたファイルなどを転送する[ファイルのみ]、ファイルと設定の双方を転送する[ファイルと設定の両方]を選択できる。当然ながら、転送されるデータ量はこの順に大きくなる。ハードディスクの状態にもよるが、ファイルを転送対象とすると、場合によってはディスク内のほとんどのデータが転送対象となることもある。



Windows XP 「引越ラクラク」 テクニック

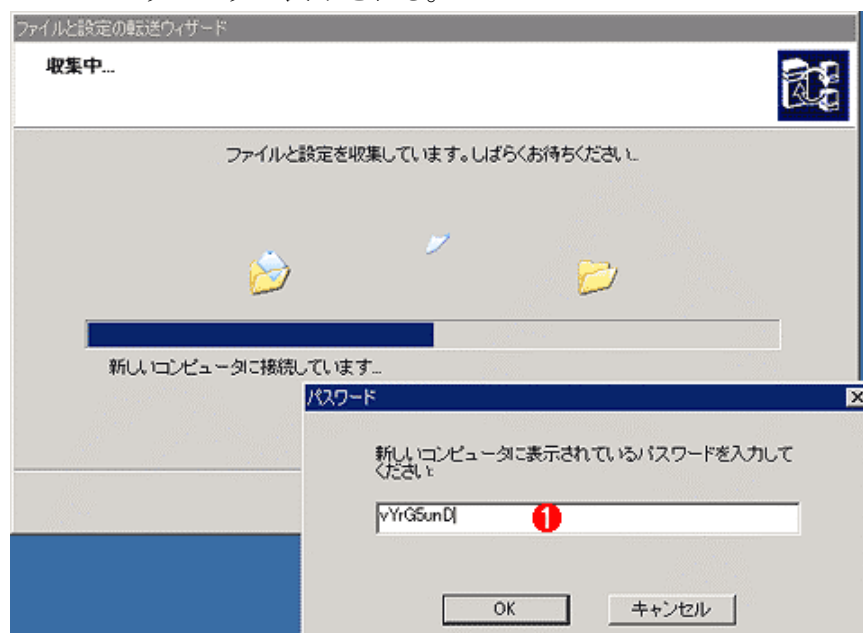
ここでは、転送ウィザードがサポートするすべての情報を転送する[ファイルと設定の両方]を選択するとして話を進めよう。

上のダイアログで[次へ]ボタンをクリックすると、ハードディスクの内容が走査され、転送ウィザードがサポートするアプリケーションが転送元コンピュータにインストールされているかどうか調査される。該当するアプリケーションが発見された場合には、データの転送を開始する以前に、あらかじめ当該アプリケーションを転送先コンピュータにインストールするようにレポートされる。



[PC→PC]ステップ 6: パスワードの確認と入力

次からは、いよいよデータの転送が実施されるのだが、通常、転送ウィザードでは、「マイドキュメント」以下のファイルなどが大量にコピーされることになる。万が一にも、見ず知らずの人にデータを転送してしまっては大変だ。そこでコンピュータ間で直接データを転送する場合には、データの転送を開始する以前に、転送先の新しいコンピュータ(転送ウィザードが起動されたままになっている)にランダムに生成されたパスワード文字列がポップアップ表示されるとともに、転送元側にはパスワード入力を求めるダイアログがポップアップ表示される。

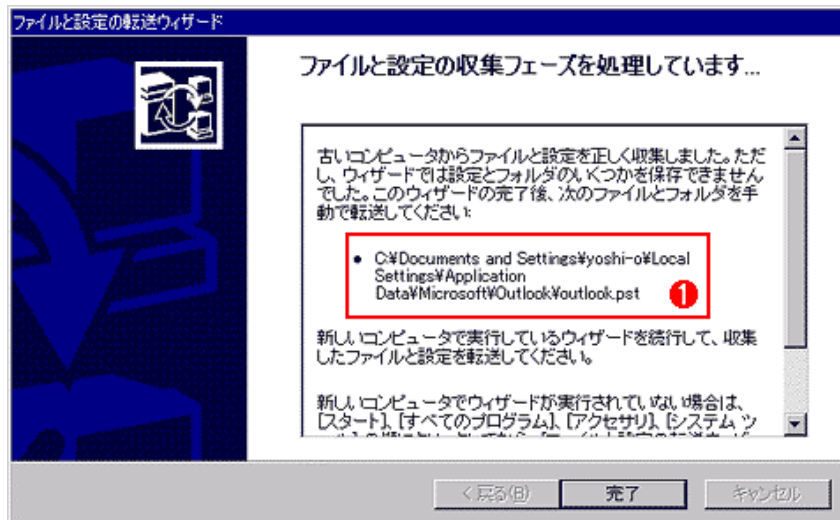


Windows XP 「引越ラクラク」 テクニック

そこでまず、転送先の新しいコンピュータに表示されたパスワードをメモする。パスワード文字列には、大文字・小文字の区別があるので注意しよう。

パスワードをメモしたら、転送元となる古いコンピュータに戻り、ポップアップ表示されたパスワードの入力ダイアログにメモしたパスワード文字列を入力する。

正しいパスワードを入力すれば、処理は続行され、データ転送が実施される。転送に失敗したデータがあるときは、次のようなダイアログが表示され、データを手作業で転送するように告知される。



以上で転送ウィザードの処理は完了である。転送先の新しいコンピュータで、使い慣れた環境が再現されているかを確認しよう。

詳しくは、以下の URL で解説されています。

[運用] Windows XP 「引越ラクラク」 テクニック

http://www.atmarkit.co.jp/fwin2k/operation/fstransferwiz_xp/fstrans_01.html

1. 「ファイルと設定の転送ウィザード」の動作原理
2. 転送ウィザードによって転送される情報
3. アップデート版「転送ウィザード」の入手とインストール
4. 転送ウィザードを使うその 1: PC→PC 間での直接ネットワーク転送
5. [PC→PC]ステップ 4: 転送元コンピュータで転送ウィザードを起動する
6. 転送ウィザードを使うその 2: PC→FILE→PC でのデータ転送
7. 転送するファイルと設定のカスタマイズ